

こいけ 正 昭 小池まさあき県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

成田空港
機能強化

騒音の影響による移転対象1078戸

「粘り強い説明を」



12月定例県議会で総合企画水道常任委員会の委員長報告を行う小池正昭県議

成田空港を核にした千葉県経済の発展を訴える小池正昭県議(成田市選出、2期)は、県議会総合企画水道常任委員会の委員長として、委員会の議論が円滑に進むよう差配しています。12月定例県議会の同委員会では、成田空港の新たな機能強化に伴う騒音問題とその対策や用地取得問題について、委員から県担当者に説明を求める質問があり、騒音防止特別地区拡大についての県の考え方や用地取得の見通しなどが明らかにされました。

12月定例県議会総合企画水道常任委員会

敷地規模を約1000畝拡大し、B滑走路の延伸、C滑走路の新設、更に飛行時間制限を緩和することで、航空機発着容量を現在の30万回から50万回に増大させる「成田空港の更なる機能強化」に伴って、騒音区域の拡大が見込まれています。12月定例議会の総合企画水道常任委員会ではこの問題が取り上げられました。

委員からは「これまでの倍近い戸数が更に移転対象となる。住民にわかりやすく、粘り強い説明をして欲しい」との要望が出されました。成田空港の機能強化の一

行われましたが、その手続きの中で利害関係者78人からは、航空機の離発着によって基準以上の騒音が想定され、移転補償の対象となる騒音防止特別地区の拡大を求める意見が多数あったことが明らかにになりました。

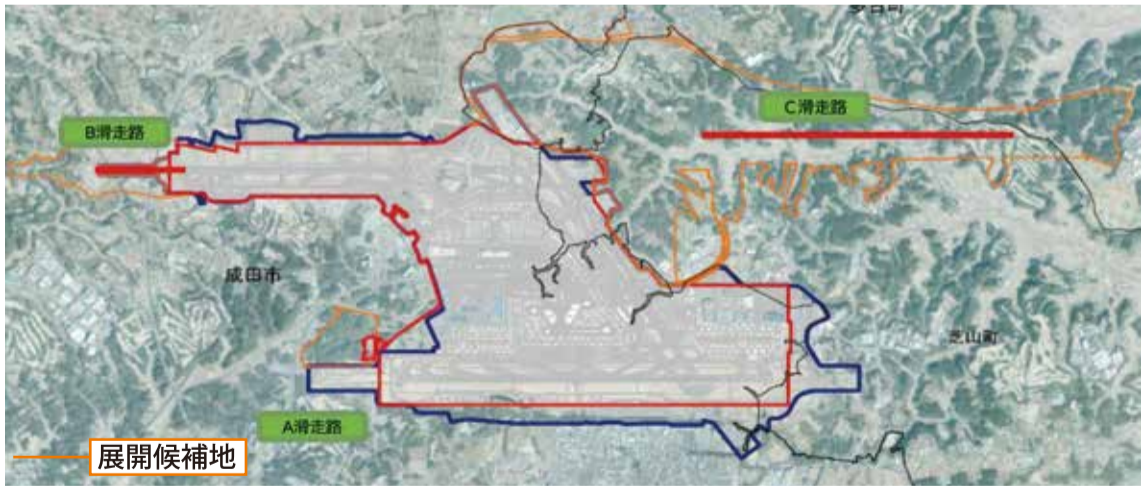
この意見に対して、県は、今回の地区設定にあたっては集落の捉え方を従来よりも大きな単位に変更するなど、騒特法の範囲内で可能な限り運用の拡大を行ったと回答したとのことです。

これまで成田空港の移転対象区域の防止特別地区に指定された民家戸数は計591戸で、うち既に492戸が移転を完了していますが、今回の「更なる機能強化」によつて新たに1078戸が移転対象区域である防止特別地区に指定されるとのこと

で、地域に大きな影響を及ぼすことも明らかになりました。

委員からは「これまでの約1000畝の用地が新たに必要になりますが、委員から「成田闘争などの過去の歴史を踏まえると、用地取得は最大の課題として、現在の用地確保の作業状況と見通しについて質問がありました。」

これに対して、空港地域振興課長は「NAAが土地



成田空港拡張用地
8割確保の見通し

空港の更なる機能強化で約1000畝の用地が新たに必要になりますが、委員から「成田闘争などの過去の歴史を踏まえると、用地取得は最大の課題として、現在の用地確保の作業状況と見通しについて質問がありました。」

小池正昭県議の主張

小池県議は、今回の「成田空港の更なる機能強化」は、国内外の空港間競争に対応するものであり、空港周辺はもとより千葉県の発展のためにも何としても成し遂げ

道路・鉄道アクセス
充実が不可欠

小池県議は、空港の機能強化は、空港施設の拡充だけでなく、道路網と鉄道アクセスの充実が不可欠であると訴えています。特に定時制・速達性・大量輸送の利点がある鉄道アクセスの充実と駅施設の利便性向上を強く求め、その実現のため活動しています。

●県政と成田市に関するご相談・ご要望をお気軽にお寄せください。

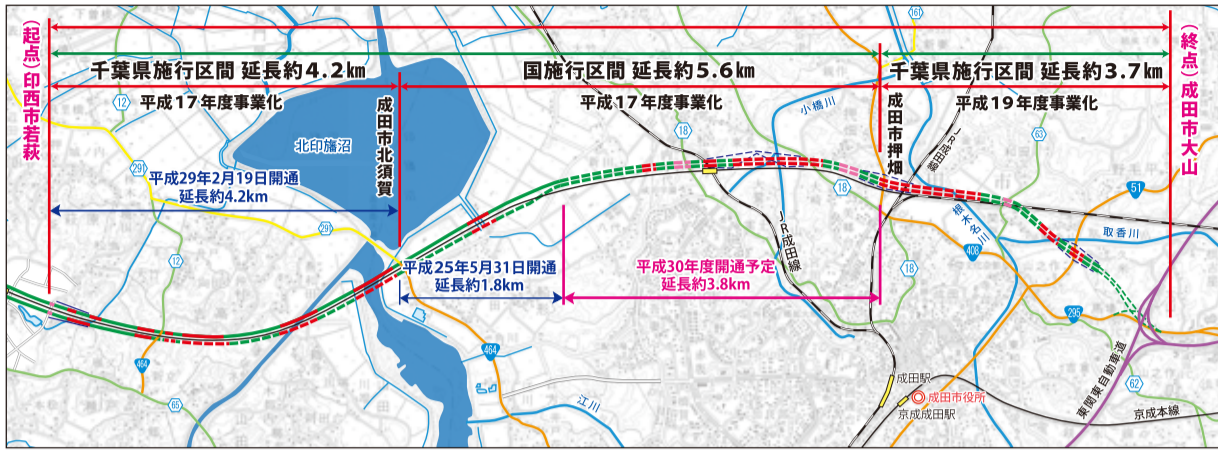
小池まさあき 県事務所
〒286-0025 成田市東町155-3 TEL.0476(22)0688

●メールもお気軽にご利用下さい。 koike@ngy.3web.ne.jp

平成31年2月1日(金曜日)

北千葉道路 船形～押畑間3.8キロ

北千葉道路(印西～成田間)平面図



成田空港の道路アクセスとして期待が大きい北千葉道路。沿線の発展や災害時緊急輸送ネットワークの強化にも寄与することから、小池県議は早期の全線開通を求めています。

西側区間の東京外環道北千葉JCT～小室IC間15キロについては、一般道を併設した有料道路制度を活用して早期の完成を目指した動きが具体化してきましたが、小池県議は、成田空港

3月いよいよ開通へ

開通予定日は3月3日(日)

側の整備も一層加速させるべきであると強く主張しています。

そして、現在施工中のI期区間である成田市内の船形～押畑間3.8キロがいよいよ3月に開通する運びとなり、千葉県においては接続する国道408号線の整備も急ピッチで進めています。

土屋地区の渋滞
開通に伴い懸念
交通量の増大を予想

小池県議は、今回の押畑での開通は、土屋地区や美郷台地区周辺の交通量を増大させると予想し、円滑な

3月に開通予定

ニュータウン中央線も



成田ニュータウンを南北に走るニュータウン中央線がいよいよ3月2日(土)に成田安食線バイパスまで開通します。

北千葉道路とも接続され成田ニュータウン方面と印西市の千葉ニュータウン方面、安食線バイパスによつて土屋方面との連絡も便利になり、広域的な道路ネットワークの形成が一步進むと大いに期待されます。

交通の確保のための対策を講じるように関係機関に要請しました。

また、これまでの本会議等において小池県議は、今後はII期区間である押畑

大山間3.7キロの早期整備に注力すべきと訴えています。その中で、まずは押畑～国道51号線までの事業の着実な進捗を要請しました。

防災先進県への拠点



新消防学校の建設、着々と

災害に強い「防災先進県」を目指して、新しい消防学校の建設が市原市で進められています。今年度いっぱい工事を済ませ、来年度の開校を予定しています。

建設地は市原市菊間783-1のスポレクパークに

隣接した県有地。約6万2000平方メートルの敷地に教育棟・防災研修センター、トレーニング室や図書室を備えた寮、雨天時に消防操法などの訓練を行う屋内訓練施設を整備します。

このほか、水没車両や建

県がんセンター新館 来年3月、竣工予定



千葉県のがん征圧の中核である県がんセンター(千葉県中央区仁戸名町666-2)に来年春、9階建ての新館がオープンします。昭和47年に竣工した現在の本館は老朽化が目立ち、さらに高齢化によつてがん患者が増えているところから、新館の建設に着手しました。

新館はセンターの敷地西側に建設中です。地下1階地上9階建てのL字型の建物は延べ床面積約5万6000平方メートル。1～3階が診療エリアで5～9階に病室が配置されます。1階には明るく開放的なエントランスホールが設けられます。

このほか、新館には患者総合支援センターや手術室、放射線治療室、科学療法室、明るく開放的なレスポラン、研究室などが配置されます。

新館の完成で、病床は100床以上増え、450床になる予定です。新棟が完成後、既存の緩和ケア病棟などの改修が行われます。

物の隙間からの救助を想定した市街地救助訓練塔、放水訓練や救助訓練を行う屋外訓練場、地震などで崩れた建物から被害者を救出する震災訓練場、地下街火災などを想定した訓練を行う地下街・トンネル訓練施設が設けられます。

さらに、登坂訓練などを行う救助訓練塔、河川や海岸からの救助訓練をする水難救助訓練施設、集中豪雨を想定した水防訓練場などを建設。高層建築物火災の消火・救助訓練を行う総合訓練棟では実際に家屋を燃やしての訓練を行います。